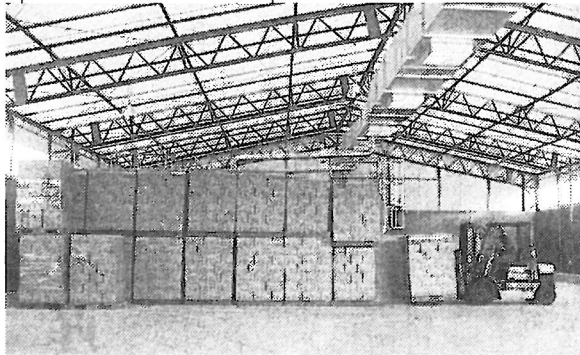


ことし3月に西宮市に新設したRMCの内部



大栄サービス

廃棄飲料リサイクル

運搬、処理まで業務提供

【水野正博】総合リサイクル事業を手掛ける大栄サービス(赤沢健一社長、兵庫県西宮市)では、賞味期限切れとなった清涼飲料水などの運搬から保管、リサイクル処理までを一貫して行う事業に力を入れている。

清涼飲料水や缶コーヒーは、賞味期限が切れると大量に廃棄されることが多い。しかし、廃棄処理施設内に保管スペースの確保が難しく、廃棄物の一括回収は困難だった。このため、飲料メーカーや物流事業者にとつては商品流通の妨げになっていた。

こうした問題を解決しようとして、廃棄される飲料の運搬から保管、リサイクル処理までの業務をトータルで提供し、飲料業

界の返品過程の効率化を図るサービスを考えている。事業展開の拠点となるのが、ことし3月、西宮市内に新設した廃棄飲料専用の管理、保管、リサイクル処理施設「リバー・マネジメントセンター」だ。RMCは敷地面積三千五百平方メートル、保管面積百九十五平方メートル、二層ペットボトル三十万本、缶コーヒー三百万本が保管できる。RMCに集めた廃棄飲料は梱包資材の段ボール

と選別した後、破碎処理リテイナー対策も整えた。装置で中身の液体と容器類(缶、瓶、ペットボトルなど)に分離する。液体は乾燥装置を使い、パレト化して燃料と称する。イオソリッド燃料と呼ばれる固形状の燃料に加工され、工場のボイラー用燃料として利用される。また、破碎した容器類も品目ごとにリサイクルする。

環境に配慮して脱臭装置を導入したほか、飲料メーカーの社名やブランド名が入った商品を施設外へ流出させないよう、二十四時間体制のセキュリティ対策も取られている。RMCの稼働以降、取扱量は順調に推移し、三ヶ月から八月までの累計が千二百ト。二層ペットボトルで六十万本、缶コーヒーでは六百三十万本に相当する。

飲料メーカーや物流企業にとつては、在庫スペースの圧縮、倉庫の回転率向上といったメリットがあり、同社では今後、事業規模の拡大を目指す方針で、「飲料だけでなく、廃棄処分される食品のリサイクルも検討していきたい」としている。